

町長あいさつ

久米島がひとつになって10年あまり。

今、大きな転換点を迎えています。

これは久米島だけに起きていることではなく、日本全体も、戦後70年という節目を迎え、政治の分野においても経済分野においても、私たちをとりまく社会状況全体は相互に関連しあいながら、大きな音をたてて変化しています。

沖縄県も復帰から40余年、未来への舵取りを県民ひとりひとりが参画しながら創りだそうとする動きも活発になっています。



ものづくりを中心にした高度経済成長がバブル崩壊で破綻し、戦後さまざまな技術の発展によって、国際社会、つまり地球全体が、県境や国境を瞬時に越えて情報や想いを共有できる時代です。世界も若者世代を中心に、これまで「豊かさ」をはかる重要な目盛りだと信じられてきた「経済力」にも疑問が投げかけられ、生き方、働き方に変化が見られ始めています。

これまで「当たり前」だと思っていた「人生の幸せ」や「地域社会の豊かさ」なども、社会の『価値軸』そのものが揺らぎを見せ始めるなかで、改めて問いなおされていると言っても良いと思います。

このように揺れ動く時代の中であって、私たち久米島も、『夢つむぐ島』を拓くためには、ぶれずに、独自の豊かさを築いていくことではないかと考えます。

第2次久米島町総合計画では、住民の意見・アイデアを基盤とした計画づくりを行ないました。未来づくりの主役である中学生、高校生、子育て中のお母さんたちをはじめ、教育、医療、農業、漁業、観光などさまざまな分野に携わる住民が、共に未来を見据えて寄せた想いがこの計画書には詰まっています。

久米島らしい新しい方向性を見いだす第2次総合計画の実現は、住民の暮らしやすい島を実現するのはもちろんのこと、それこそが、同時に、日本にそして世界に開かれ、多くの人々が集う島づくりの実現に繋がるのだと信じます。

これからの激動の10年を見据え、いかなる時代にあっても島人の安心安全な暮らしを守り、子どもたちの笑い声が響く島であり続けられるように…。

今、新たな挑戦が始まります。

2015年9月25日 久米島町長 大田 治雄